

1:1 宣告。マラキを通してイスラエルにあった主のことば。

1:2 「わたしはあなたがたを愛している。」と主は仰せられる。あなたがたは言う。「どのように、あなたが私たちを愛されたのですか。」と。「エサウはヤコブの兄ではなかったか。・・主の御告げ。・・わたしはヤコブを愛した。」

1:3 わたしはエサウを憎み、彼の山を荒れ果てた地とし、彼の継いだ地を荒野のジャッカルのものでした。」

1:4 たといエドムが、「私たちは打ち砕かれた。だが、廃墟を建て直そう。」と言っても、万軍の主はこう仰せられる。「彼らは建てるが、わたしは打ちこわす。彼らは、悪の国と言われ、主のとしえにのろう民と呼ばれる。」

1:5 あなたがたの目はこれを見て言おう。「主はイスラエルの地境を越えて偉大な方だ。」と。

このマラキ書が書かれたのは、紀元前 400 年よりも少し前であると思われます。その前にイスラエルは（分裂した南のユダも）律法に従いきれずに、預言の通りに他国から侵略されて、捕囚となってバビロニアなどに奴隷状態で連れられていきました。その後、エズラやゼルバベルの指導によって神殿を再建することができ、またネヘミの指導によって城壁が再建できました。

このようにイスラエルにとって大きな喜びの期間があったにもかかわらず、またそのときに主に従う決心による宗教改革が行われたにも関わらず、その後（すなわちネヘミヤがアルタシャスタ王のもとに帰り不在となった間に）、イスラエルの人々と社会はまたも神様に不従順となってしまいました。

マラキはこれを憂いて神の声を聞いて伝えた預言者です。すなわち一度は神に救われて、神の栄光を見たにも関わらず、不信仰不従順になっている神の民に対して、語っているのです。ですからそれはまさに、現代のクリスチャンも心して聞くべき内容です。

そのイスラエルは、自分が主に聞き従わないのを棚に上げ、または弁解するようにして、「どのように…私たちを愛された」のかと、質問をしています。これは愛されている感覚はないという、否定的なものです。

それに対して神様は、ご自身の絶対的な主権による愛を強調なさいます。この世のどんな理由や状況にも左右されないで、ただご自身の決定権だけが生きるといえるものです。

私たちも状況や比較によって、神様に愛されているのだらうかと思い悩むときがあるかもしれませんが、そのようなときは、自分の不従順な面を吟味しつつ、神様の愛は条件によらずに絶対的なものであるということを、強く信じましょう。そしてそこから自己像や人生を考えていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

